



第61号
発行責任者
藍川達雄

ボヘミアン・ラプソディ

大宮退職校長会

副会長 金子泰久



もう何年にもわたって繰り返される「振り込め詐欺」、被害額はとてつもなく大きい。最近では、振り込め詐欺のようになり面倒なやり方ではなく、人通りが多かるうが、白昼であるうがお構いなく、粗暴なやり方で荒稼ぎする凶悪な事件も増えてきた。

東京銀座の高級腕時計「ロレックス」専門店での強盗事件には、人通りの多い場所で白昼堂々で行われ、衝撃を受けた。さらに東京の狛江の強盗では、年配の女性の撲殺事件まで起きている。逮捕された16歳から19歳の少年4人が関与したという。手口は稚拙

かつ粗暴である。ついこの間義務教育や高校を卒業したばかりの子どもたちである。これほど卑劣で凶悪な事件を絶対に許すわけにはいかないが、一方で、かつて義務教育に携わり現在保護司をしている立場からすると、加害者の側から事件を見てしまう。「出し子・かけ子・受け子」として、あるいは強盗犯として、安易な気持ちから「闇バイト」に応募し、やがて組織に追い詰められ逃げることもできず、最後は単なる捨て駒にされている。「高収入を謳ってSNSや掲示板で募集され「軽い気持」で始めている。応募する背景に、若者の「貧困」や

「浪費」、「依存症」など理由は様々であるが、手軽に稼げると思っている場合が多い。中には、高学歴や学生時代学校行事で中心的な役割を果たしてきた全く前歴のない若者もいる。若者を簡単に闇の世界に引きずり込ませてはならない。そのためには、学校、自治会、家庭、保護司会、民生委員会等を通じて啓発努力が必要である。

「浪費」、「依存症」など理由は様々であるが、手軽に稼げると思っている場合が多い。中には、高学歴や学生時代学校行事で中心的な役割を果たしてきた全く前歴のない若者もいる。若者を簡単に闇の世界に引きずり込ませてはならない。そのためには、学校、自治会、家庭、保護司会、民生委員会等を通じて啓発努力が必要である。

標題は70年代初頭から80年代に大活躍したロックバンド「クイーン」の名曲である。意味も解らず曲に惹かれて聞いていた曲である。「ママ」と訴えることからその意味を調べてみると、「生きづらさを生きていく」今の若者の現況と重なっているように思えてくる。自由奔放な狂詩曲、とても訳すのであろうか。

【これは現実なのか？ それとも幻なのか。この現実から逃げることはできないんだよ。目を開いて空を見上げてごらんよ。僕はただの貧しい少年さ、同情はいらないよ。

ママ 人を殺したんだ。
ママ 人生は始まったばかりなのに・・・】

令和5年度史跡めぐり バラの町 与野本町を訪ねて

令和5年11月16日午前9時、17名が与野本町駅に参集した。今年度も大宮観光ボランティアガイド会3名の方を招いて、藍川会長の挨拶後、バラの町と与野本町散策へとくり出した。

まず、令和2年与野本町小学校複合施設（いーよの）の地階に開館された与野郷土資料館を訪ねた。歴史を体感して学ぶことのできる展示スペース等充実しており、地域の小・中学校からの来館も多いとのことであった。

次に円乗院に到着。掃き清められた境内で、ご住職の説

法もいただくことができた。小春日和に恵まれて、円福寺、与野公園へと気持ちのよい散策が続く。公園では、芳香を漂わせる秋バラは快晴の空を背景に正に見ごろであった。

天祖神社、一山神社、御嶽社、扇の宮氷川神社と与野七福神をめぐった。ガイド会の方の説明を聞きながらの散策は、一人歩きでは、目に留まらないものにまで目を向けることができ、中世初期から鎌倉街道の宿駅となった古い街並みも堪能した。

3時間余り、ほとんど足を止めることのないそれぞれの変わらぬ健脚にも感謝しつつ、北与野駅で散会となった。

(福島博子)



大人のための社会科見学 「桜田門外の変を 現場検証する！」

さる10月20日(金)、4年ぶりに福利厚生部主催の懇親旅行、大人のための社会科見学が開催されました。

当日は、健康ウォーキングにふさわしい穏やかな天気でした。竹本顧問、加々美顧問をはじめ藍川会長、金子担当副会長、厚生部員の皆さんを含め、総勢16名が参加しました。

まず、上野駅に集合。久しぶりの顔合せは、何か新鮮なものを感じさせました。早速、藍川会長の挨拶の後、今回のスタート地点の神谷町駅に向かいました。ここには講師兼ガイドの瓜生和徳氏が待っておられました。瓜生氏は、4年前の懇親旅行の講師。今回はイヤホンガイドやアプリを使うなど、ますますグレードアップしていました。

いよいよ、日本史上、最も著名な暗殺事件「桜田門外の変」巡りの始まりです。最初



は愛宕神社です。ここは桜田門外の変の実行犯(脱藩した水戸浪士17名、薩摩浪士1名)が集結し、必勝祈願の後、大老井伊直弼の登城に向けて出発した所です。愛宕神社は高台にあるため、出世の石段を昇るコースが一般的ですが、健康ウォーキングと銘打っているもののさすがにきつい階段でした。次に向かうのは、井伊家上屋敷です。途中、新シ橋跡(あたらしばし)江戸城く江戸城外堀り、今は道路、さらに今や高層ビルとなった文部科学省を左手に見ながら、官庁街を過ぎ、国会議事堂を

正面に右折して行きました。そして少し奥まった所では、日本の標高の基準点や電子基準点(GPS)を見ることができました。余りに普通過ぎて、少し驚きの声が上がりました。さらに進んで井伊家上屋敷跡に到着したのが11時15分頃。桜田門に余りにも近く、しかも建物もなく見通しも良かったため、「この短い距離でよく襲撃する機会があったな」という疑問が出ました。瓜生氏によれば、「江戸城へ登城する大名行列の見学は江戸庶民にとつて娯楽の一つ。桜田門の前はその名所。酒や食べ物を出す屋台も並んであり、浪士達は屋台に紛れ、物陰に潜み襲撃した」ということです。この事件の後、幕威は失墜していくのですが、この幕末の時期、武家の命をかけた世界と江戸庶民の気楽さが感じられる歴史上の事件でした。懇親旅行の締めはお楽しみ屋食会です。今回は有楽町駅近くの「ニユートーキョー」でした。楽しい時間はあっという間に過ぎ、令和5年度の懇親旅行が終了しました。

(星 美千也)

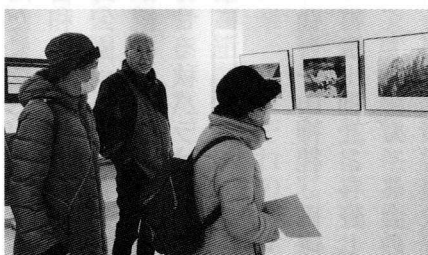
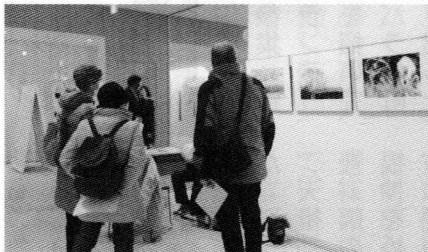
第25回 大宮退職校長会 美術展

1月22日～1月28日、「大宮退職校長会美術展」が図書館展示ホールで開催されました。さいたま市教育長様始め、県や支部の会長様や、多くの会員の皆様にご来場いただきました。

今回は絵画・書・写真・工芸の4つの分野に、昨年とほぼ同数の26名から61点の力作が出品されました。

来場者からは、「退職後も趣味に打ち込み、毎年腕を上げていて素晴らしい」「懐かしい先生の作品に出会い、感動しました」などの感想が寄せられています。来場者数は667名でした。(入江知彦)

第24回美術展 大宮退職校長会



新シリーズ

私のときめき

ライフ④

ゆったり楽しむ

ランニング

豊島 登

教育委員会事務局への再任用・4分の3勤務で、少しの社会への貢献感を味わい、ゆとりのできた時間で好きなことを楽しむ。これが、今の私のときめきライフである。

好きなことはいくつかあるが、今回は「ランニング」編。もともとスポーツは好きだが、ただ走るのは大嫌いだ。罰というイメージが強かったからだろうか。ところが、やってみると奥が深い。だれと約束するでもなく一人できるところもいい。

週に1回の勤務のない日は、2、3時間のロング走に出かける。スタートは、朝8時半から9時頃。昼前には戻れるようにしている。平日のこの時間に、季節を感じながら、ゆったり走れるなんて、何と幸せなことか。息を切らし、

いい汗をかく。ちよつとした筋肉痛も心地いい。ほどよく頑張り、無理なく無理する

これがモットーだろうか。怪我なく元気に、各地で開催されるマラソン大会に出場したい。コロナが5類に移行することになり、大会の開催も通常に戻った。私の参加熱もメラメラと復活。以来、これだけの大会に参加してきた。

令和5年1月・さいたまマラソン（ハーフ）を皮切りに、2月・いわきサンシャインマラソン（福島・フル）、3月・板橋シティマラソン（東京・フル）、5月・星の郷八ヶ岳野辺山高原ウルトラマラソン（長野・百キロ）、6月・サロマ湖ウルトラマラソン（北海道・百キロ）、11月・東北みやぎ復興マラソン（宮城・フル）、12月・川口マラソン（ハーフ）。

ここからは予定。令和6年1月・ハイテクマラソン（東京・ハーフ）、2月・さいたまマラソン（フル）、3月・板橋シティマラソン（東京・フル）。私は教員時代、体育の



実践研究に情熱を注いできた。そこで学んだのは、「楽しい体育」「自発的な学習」「プレイ（遊び）」「生涯スポーツ」

だった。今、まさにこのことが自分のライフスタイルとなっていることがうれしい。いつまでできるだろうかという不安が過ることもないではない。頑張ることがつらくなつて、無理なく無理できないとなつたら、潔くやめよう。でも、今はまだその時ではないと感じている。

ちなみに、「運動は最強の・うつ予防薬であり、記憶力、創造力、注意力、集中力を高める」とか、「有酸素運動を日常的に行うと、年をとっても脳細胞は増える」といった研究成果（アンデシユ・ハンセン「運動脳」サンマーク出版）があるそうで、ますますいい気になつている。

同好会紹介

写真同好会

「愛写会」

写真を友として

松田 泰成

写真同好会「愛写会」はその名のとおり、写真をこよなく愛し、「写真を楽しむ・写真で楽しむ」友の集まりです。令和5年度の活動は、次のとおりです。

4月は総会での方針の確認と作品研究。6月は上尾丸山公園でのショウブの撮影会。7月は行田古代蓮の里での早朝の撮影会。9月は秋の撮影会と第24回美術作品展についての話し合いと、その後作品研究を兼ねての懇親会。11月は国営武蔵丘陵森林公園での紅葉の撮影会。12月は美術作品展の作品の搬出入と会場当番についての確認などをした後に、今年度最後の作品研究を行いました。

このように、総会を含む3回程度の例会を大宮中部公民館を会場に行い、四季折々の自然を求めて、できるだけ身近な場所での撮影会を2回か



ら3回程度開催しています。作品研究では、撮影会を含めて日頃撮影してきた写真を持ち寄り、互いに感想や意見等を交換し、技量の向上に努めています。

平成14年に中藤喜八郎先生の米寿を祝う美術展が開催された日を第一歩として、現在加々美健一会長以下8名の会員で活動しています。写真を楽しむ写真で楽しむことを具現化する場が、年に一度の美術作品展です。

写真を友として、1枚1枚1年1年を共に積み重ねていく仲間が、大宮退職校長会会員から一人でも多く加わってく。ださることを祈ります。

会員の声

今も心の故郷重謠を歌い続けて31年

吉岡 由和

社会貢献の思いを童謡・抒情歌に託して市民対象に音楽療法として長年に亘り継続している。具体的には全国水環境大会出演を始め奈良県音声館との交流、埼玉県内さいたま市の行事イベントに出演さらに福祉施設や大宮区民まつり、市青少年健全育成活動等の支援に奔走し、岩槻区に同様の団体を結成した。その結果、県文化ともひび賞、下總皖一童謡音楽賞、県文連から文化選奨、市から市政功労賞等受賞。今も市民会館で活動中。

いい歳をして「叱られる」

小河原 乙浩

退職校長さん方との、麻雀旅行中のことである。昼食をとっているとき、ある人から、「会長のM先生の席と近すぎる。なれなれしくするな」と叱られた。なんのことか、わからなかった。

私は、定年退職後、南教育センターの講師をした関係で、小中学校の退職校長さん方とのお付合いが多い。M先生は、麻雀仲間で、拙宅に何回も来ていただいている。

ずいぶん若く見られたと思うとともに、いろいろ考えさせられた。

異常気象

安藤 正徳

20年来楽しんできた家庭菜園で、昨年は思いがけない体験をした。適期に蒔いたはずの小松菜・大根・白菜が発芽後全て溶けて失せた。2回目も同様だった。種袋の説明書きを改めたが、蒔き時に落ち度はなかった。諦め半分で蒔いた3回目ようやく育った。いずれも例年の「適期」からは20日以上も遅かった。季節はずれの猛暑の災いだろう。種袋に記される適期は今後どうなるのであろうか。農家のご苦労が思いやられる。

思いがけぬ出逢いの人生

坂井 俊夫

私は思いの他の有難い出逢いによって、今迄やってきた。学生時代、バスで出逢った方への挨拶がきっかけで、大宮の学校へ奉職。育ててくれた先輩の先生方、研究指定の中で多く学び、温かい保護者に恵まれ、出逢ったどの校長先生からも多くを教えられ育てていただき、教育行政で幅広く深く多くを学び、管理職として充実した日々。日常を含め、恵まれた運・出逢・出愛に感謝！ 大きなお陰様・お力添えをいただいた人生です。

安息

大木 忠司

人生80年といわれた現役のころ、公園墓地で造成の現場を目にした。私の人生の長さを考えたとき、「墓所は永く在り、安住の地になるのだ」と、感慨深く見つめていた。人生は100年の今、永い安らぎの地を誰が何処にどのような形で定めるかなど多様化している。幸い、我が家は菩提寺も次代を守り継ぐ者も安心である。これからも元気に、一日一日を有意義に過ごしていきたい。

徒然なるままに

金子 有次

頭の体操部の部活です。

次の①②の数式中の□に(十、一、X)の演算記号のどれかを入れて計算し、結果が100になるようにしてください。

①	1	□	2	□	3	□	4	□	5	□	6	□
	7	□	8	□	9	=	100					
②	9	□	8	□	7	□	6	□	5	□	4	□
	3	□	2	□	1	=	100					

囲碁で能力・活力アップ

浅香 敬

「囲碁は老若男女世界中の誰とも生涯楽しめる脳トレ」これは主宰する2つのことも囲碁教室の募集案内チラシのキャッチフレーズです。

会場は大宮東公民館と大砂土公民館。生徒数は60余名。高齢者囲碁クラブの仲間6名で指導しています。

大盤での一斉教授、個別指導、指導基大局、囲碁大会への引率指導、教材作り等々多忙ですが、子ども達とのふれあいが何よりの活力源で充実した日々を送っています。

コーヒータイム

船越 忠男

妻がリタイアして、夫婦で過ごす時間が多くなったのをきっかけに我が家では「コーヒータイム」が一日のルーティーンとなった。

10時になるとキッチンで準備に入る。コーヒーを淹れるのは私でお供を用意するのは妻である。

手順は、まず「天然水」を鉄瓶で沸かし、その日の気分を選んで豆をミルで丁寧に挽く。フレグランスの香りが立つ。ドリッパーを通してコーヒーがカップに注がれる。私のささやかな愉しみである。

現状

河原塚 順司

上尾道路が出来て数年、家の周囲が目まぐるしく変化。農家が畑の耕作の出来ない状況にもなっている。

今、我が家の前に貸家が数軒建

設中である。先日、やっと基礎工事が終わったばかりだが、既に入居者は決まっているとの事。今迄の広告方法よりスマホなどを使った方がはるかに決まるのが速いと云う。とてもガラケーの頭ではついていけない。そんな環境の中で日々の生活を送っている。

健康で生きるといふこと

工藤 キヨ子

昨年10月から年末まで帯状疱疹に罹患した。左手一本がやられ最後まで激痛としぶれなどに自由を取られた。予想も予告もない本人に許可なくやってきた病に色々考えさせられた。しかし後輩が言ってくれた。「先生、ここまで働いていることは素晴らしい事だと思います。心身共に健康でなければひとの役にも立つことは出来ません」と。そんな大それた考えは無いが、自己管理の出来る「健康に生きる」まとめをしたと思った。

テレビで大相撲を楽しむ

溝口 正己

現職の時は視られなかった相撲中継。今は力士の勝敗に一喜一憂テレビを大いに堪能している。

画面からは気づくことも多い。はだしの行司がいれば、白足袋の行司、また、草履を履く行司。番付で装いが違う。足元にも見られ

る行司の格差。大相撲が格式を重んじる世界である事を改めて知る。他のスポーツとは違うところだ。広い国技館での相撲観戦とは違い、テレビの眼は特段、気づきの楽しさを教えてくれる。

筑波・富士・能登

丸橋西重

元日、50年前の指扇中時代の遠足で引率した筑波山に行こうと決め、9時に出発した。圏央道の白岡菖蒲入り、常総で降り、筑波山に向った。道はすいていた。

11時、山道に入ると、車が数珠繋ぎ、中々進まなかったが、山麓の駐車場から、広大な関東平野。真西の丹沢山地は袴。白衣の富士は正に白衣観音。南西に、東京のビル群とスカイツリー。丸で針。

午後4時、今羽のコンビニ。車が揺れた。令和6年能登半島地震。

あれあれ？ やれやれ！

中野治代

3年前、2階ベランダでキュウリの苗をプランターに4本植えた。75本の収穫があり誰彼構わず自慢した。しかし2年目は41本、そして今年は17本！ しかもくるんと丸まったり先が細かったり。葉も早いうちに黄変して落ちた。水道を引いてあるので灌水は十分の筈。土作りの怠慢か、異常気象のせい

か、栽培意欲が低下。

一方、那須の別荘では、雑草が地を這い樹木を覆う。その逞しさにはため息と諦めの境地になる。

「愛言云」に入会して

中山亮

私立中学校を退職して、1年になります。趣味の写真から遠ざかっていましたが、お誘いをいただき写真の同好会に参加できました。会の皆さんと撮影会に参加したり作品の批評会で意見を交わしたりと楽しんでおります。年を重ねて車の運転も遠方へ出かけることがためらわれますが、日光や富士山の近くは好きな場所ですので、これからも機会を見て出かけたと思います。写真に興味のある方の入会をお待ちしています。

昨年のこと

関根廣

大病もせず、いい人生だと思っていたが、昨年悪性リンパ腫というガンに罹患。5カ月間の点滴治療を受けた。他の病氣も併発して治療とリハビリの1年だった。失ってわかるものは親の恩と健康だろうか。ハイキングや卓球も再開して体力の回復に努めている。家にいる時間が長くなったので葉室麟の著作を読ませていただいた。「野心家は『目的は手段を浄化する』と考えることからモラルを失う」(「柚子は9年で」から)改めて自覚する健康の大切さ、有難さ

る』と考えることからモラルを失う」(「柚子は9年で」から)

改めて自覚する健康の大切さ、有難さ

谷中稔

私は12年間勤めた市立高校を昨年3月で退職しました。

退職して半年後に嘔吐、腹痛、便秘等、頻繁に起し、救急車で病院に搬送され、入院精密検査を行った結果、大腸癌及び腸閉塞と診断され、再入院し2度の手術をして癌の摘出をしました。体重も16kg程減少したため、リハビリ(体力づくり)に励んでいる昨今です。改めて健康の大切さ、有難さを痛感しています。

退職校長会のご発展と皆様のご健康をご祈念申し上げ、近況報告とさせていただきます。

百周年記念祭〜西武ドーム

野口一夫

山村学園(短大・山村学園高校・山村国際高校)としての創立百周年記念祭をブルーナドーム(西武ドーム)で開催。

県民の日11月14日

ふみ道をたどる
山村歩んだ道を
ふみだをまじえ
たダンスをまじ
えたパフォーマンス
表現



のびやかに、心豊かに

東 章子

退職後は家事を柱に、旅行、琴、ジムを楽しんできたが、今はバズルが加わった。辞書をひく、ネットで調べる、夫と知識を分かち合う。意外と奥深いのである。そこに、コーヒを味わいながらの韓国鑑賞が入ってくる。

「心を柔らかく保ち、古いものを愛でつつ、新しいものにもときめきを」この言葉に感わされ、韓国語学習にも手を伸ばすか？



老いの人生は「伸びやかに、心豊かに」―私の密な願いである。

頑張れ山田監督

入江知彦

現役時代、全連小の機関誌編集委員を8年間やった。全国にある3万3000校の小学校に届くのは、「文部広報」とこの機関誌しかないと思命感をもって任務に当たっていた。年に一度の特集の主担当だった時、私は学校教育にも造詣の深い山田洋次監督に巻頭言を依頼した。しかし、次作の撮影で多忙のためお断りしたと、直筆で丁寧なお返事を頂いた。その山田監督が昨秋92歳で新作を発表し

た。まだまだ活躍されているのだと感心させられた。

「昭和」の時代

加々美健一

小津安二郎の映画「東京物語」(S28 笠智衆、原節子)を見た。テーマは親子愛であり、日常の様子を淡々と描く感動的な作品であった。この映画で、私にはもう一つ感動したことがある。それは「昭和」の風情だ。特に、原節子(戦死した次男の妻)が暮らすアパート。うす暗い板敷きの廊下をスリッパで歩き、ドアをあけると質素な畳の小部屋。これこそ「昭和」だ。私は学生時代の貧乏生活思い出し、妙になつかしくなった。

新聞

大野光雄

元日の朝、初詣後に駅で購入した5紙と宅配の2紙を加えた7紙に目を通すのが楽しみです。

最近ネットに押されがちの新聞と言われていますが、毎朝、珈琲を飲みながら三大紙の一つと地方紙を読むのが日課です。

速報性のネットとは異なりますが、じっくりと読めるのが新聞のよさです。また、地方紙は地域に密着した親しみの持てる紙面です。そして、何よりも文章を読むことが頭の体操となっています。



【近況報告】

上村 忠男

現在、令和7年に開催する全国公民館研究集会東京大会の準備にとりかかっています。例年は全国7カ所で全国大会を開催していますが、7年に一度は首都圏でのみ開催するものなのです。東京国際フォーラムを会場に、特別記念講演などを含めて検討しています。前回は、平成30年に池上彰氏などを招いて開催しました。今回がその後の大会となります。詳細の確定後にはご案内しますので関心のある方はぜひご参加ください。

疑問ばかり

須田 博

昨年10月、自民党県議団が、突然、子どもの夕方の行動規制や母親の家庭への束縛などを促すとも取られる議案を県議会に提出した。

直ちにさいたま市P連が反対声明を出し、多くの団体も同調し、結局、取り下げられた。事故防止と親子関係の充実を狙ったというが、子どもの自立心や地域の教育力を無視するものだった。しかし、真

つ先に疑問を呈すべき、県校長会も県退職校長会も何らの動きを見せなかったのはどういうことか。

まさか私に

小川 啓

パソコンの画面上に、突然「ウイルスに感染、あなたの個人情報盗まれる。画面上の電話番号に至急電話を」との表示。気が動転、すぐに電話をしよう。するとマイククロソフトの社員と名乗る片言の日本語を話す女が出る。そして、修理代として至急近くのコンビニへ行き、Apple iTunes card 3万円分を買い報告をという。それを聞いていた息子がそれは詐欺だとアドバイス。直ぐにパソコンの電源を切り、難を逃れた。

本よりあんばん

柴崎 邦夫

朗読の稽古のために月に2回ほど、2時間かけて「豊洲」へ行く。読む本は、童話や詩・随筆等であるが、主に深川周辺を題材にした宮部みゆきや藤沢周平の時代小説である。

朗読会の仲間は、11人。私以外は、門前仲町や有明に住む人たちである。別世界の人たちとの交流は楽しい。が、更なる至福。それは、豊洲シビックセンターの11階で、煌めく海を眺めながらあんばん

ンをかじることにある。

室生寺の塔

佐藤 薫

室生寺を初めて訪れたのは、平成10年9月22日。金堂の隅に置かれた十一面観音を拝し、五重塔を見て奥の院へ。夕方帰る頃には風雨が強く始まり、室生口大野駅に着く頃には激しさを増し、小さな待合室に逃げ込んだ。

翌日、新聞を広げた途端に目に飛び込んできたのは、何と昨日見た五重塔の軒が、倒れてきた杉の大木により破壊された写真だった。それから二度、再建した塔を見に足を運んだ。

分かっているけれど

菊池 保夫

何百回となく繰り返し打ち込んでいるが、ついつい力みが入ってしまう。余裕を持つて、ゆっくりとクラブを振り上げ、八分の力で振り下ろすことができる。ゴルフボールは十分な飛距離と方向性を得ることができる。もっと飛ばそうと腕に力を加えるので、顔が

上がって右に大きくスライスする。又は、腕のバランスを考え、左腕主導にすると左へと飛んで行ってしまう。先日、ドライバーを新規購入し、今年こそはと、秘かに期待しています。

嵐が来た

菊地 三郎

年末に娘家族がやってきた。3人の孫たちは少し見ないうちに大きくなり、一端のことを言うようになった。中でも末っ子は、まだ3歳に満たないが、唯一の男ということもあり、言動とも活発で一緒に行動するのが大変だった。足を腰を思っている私に対しても、近くの公園に行つて遊ぶことやテレビを見ながら踊ることを強要した。3泊4日の生活は本当にすまじいものだった。4日間の嵐が去り、また静かな生活にもどった。

白秋の季で逍遙

佐々木 恭一

五行思想での白秋に逍遙し、朱夏、ときには玄冬を逍遙している私です。

本卦還りを過ぎ、所作行動、精神年齢は退行している。後期高齢者に手が届くのに、無計画の一人旅、酒場徘徊、午前様、朝帰り等等。妻は諦観、諫める友も無し。

某日、近隣の園児、美亜ちゃんが春の陽光に溢れんばかりの笑みで叫びます。「爺ちゃん」。玄冬の幼児に諭された私でした。

48年間も変わらない!

渡邊 正道

私の好きなテレビ番組にNHK

「ドキュメント72時間」がある。

昨年9月に、「北海道礼文島ユースホステル桃岩荘」の放送があった。私は48年前、北海道旅行をした時に「桃岩荘」に泊まっていた。

そこは、北海道でも唯一無二のユースホステルだった。そして、放映された「桃岩荘」は、48年後の今も当時の雰囲気進化も退化も変化もさせず残っていた。時が止まったように青春時代の懐かしい思い出が蘇った瞬間だった。

老後の生き方を思う

菊池 悦夫

昨年、3月末に公民館勤務を退職した。長年、馬車馬のように働いてきて、ふと、これからどう生きようかと考えるようになった。先日、退職校長会美術展に行ってきた。写真、絵画、書道、鉄道模型等素晴らしい作品が展示されていた。わたしが、何度も行つたところのある観光地の風景を一部切り取った写真や、幼少期に乗ったデイズルカーなどの作品に感銘した。70歳の手習い、これから何を始めようかな!

心に残る無人島生活体験

川本 順一

35年前の夏のことである。文部省(当時)外郭団体主催の無人島生活体験に2回参加した。男女別

に小学校5年生から高校生までの異年齢で構成された班に大学生の班長が加わり、10泊11日の自給自足生活を送るのである。私は1回目に大人班の一員として、2回目はスタッフとして参加した。

場所は愛媛県宇和島沖の御五神島だ。草を刈り、テントを張り、竈を作って連日自炊生活をした。世間を離れた非日常の世界である。

お伊勢参り

中山 正一

新幹線と観光バスに乗り、初めての三重の旅へ。まずは二見興玉神社で穢れを落とし、次の外宮へ。日常を離れた静かな杜の中を抜けます。さらに、美しい大鳥居をくぐり、五十鈴川に架かる宇治橋を渡って内宮へ。玉砂利の長い参道を進むと、身も心も洗われる気分でした。正宮や別宮も参拝し、目的の天照皇大神宮のお札を買いました。その後、おほらい町で名物の赤福を土産に買い、ほろ酔い気分で帰路につきました。

また我が家へおいで

中村 秀男

昨年6月、痩せ細って動けなくなっている猫を妻が保護した。獣医に診せると2〜3歳の雌で、腹部に大きな腫瘍（がん）が三つあり、リンパや骨に転移していて、

この容体では2〜3日の命と言われた。

そこで我が家へ連れて来た。猫用の液状食品を口元に近づけると、僅かに舐めてくれた。「頑張れ、頑張れ」私も妻も涙があふれ出て止まらなかった。夜は妻と娘が交代で寝ずに看病した。しかし4日目の午前、私と妻が見守る前でその猫は息を引き取った。その夜は娘が泣きながら添い寝した。

翌日、動物専門の斎場で荼毘にふした。「たった2〜3歳でこの世を去るなんて。生れ変わったら、また我が家へおいで」そう念じながら私たちは手を合わせた。

健康が何より大切！

篠原 邦雄

仕事を完全退職して、2年が経ちました。退職してからは、現役時代にやれなかったことを実現してみよう、また、ボランティアも思いあれこれとやっています。運動をしたり、旅に出たり、書道を習ったり、社会貢献的なことをしたり、さらに孫の面倒見も時々頼まれたりと、退職後の方が、多忙感が強くなったような気がしています。思えば、こうしてあれこれと、好きなことができるのも、やはり健康で動けるからだということを実感しています。やはり健

康が一番！

備中松山城

松田 泰成

昨年末、遂に備中松山城を訪れることができた。京都市内のホテルを7時すぎに出発。岡山乗り換えで伯備線の特急やくもに乗車。9時41分、備中高梁に到着。現存12天守と全国の山城めぐりで、いつかは登ってみたい憧れの城のひとつだった。ただし、かなり不便な場所であるという思い込みがあり、二の足を踏んでいた。行ってみて思った。先入観は捨て、行こう！という強い動機さえあれば、夢は叶う。よかった。

「退職」

大越 一廣

定年後の仕事も、はや10年がたち、2度目の退職を迎える。特に予定はない。さて、どうするか。心構え1…規則正しい生活を心がける。昔子どもたちに言っていたことではないか。今度は自分自身に言い聞かせる。心構え2…「知的好奇心」を大事にする。何か先が見えてくるような気がする。心構え3…10年後また退職校長会に原稿を投稿する！

鷹狩行を見学して

関根 俊幸

岩槻で行われている鷹狩行列を

岩槻観光ボランティアの方の案内で初めて見学しました。

鷹がホテルの屋上から下で待つ鷹匠めがけて飛んでくる様子は圧巻でした。また、將軍や姫、岩槻藩主など、江戸時代の衣装を身に着けての行列や、將軍をお出迎えする時の様子、黒奴が行う奴振りも見事でした。さいたま市内のことも知らなかったことがたくさんあり、より見聞を広めたいと思いました。

人生はうまくできている

渡邊 朋久

退職後の再雇用が一段落するのを待っていたかのように母の介護度が上がって、一日家を空けるのが難しくなった。そこで近所の学童保育で半日だけ働くようになった。早3年。人手不足もあつて徐々にあてにされるようになり、週2〜3回のはずが4になり5になり……。とうとう施設の鍵を預かるまでになってしまった。でもそれに合わせるように母が特養に入所してくれた。全く人生というものはうまくできているものである。

「坂東三十三観音」巡礼

田代 敏生

関東7都県に点在する「坂東三十三観音」の巡礼を、昨年、了えることができた。多少思うところ

があり始めたのだが、未だに、結願の後に得られるという「心の平安」は訪れてくれない。

しかし、古くから各地に寺院を建立し厚く信仰してきた多くの民衆がいたこと、更に、それを守る現代の人々がいるという事実、強い感銘を受けた。日本人の信仰について、思いを新たに巡礼であった。

回り続ける「ママ」のように

眞嶋 廣久

定年退職して8年が経つ。未だに学校にいて、日々子ども達と共にワイワイやっている。ちょうど孫の年齢に重なる子ども達である。自然と孫を見つめている気分になり、かわいくてしょうがない。これが週3日と半日。残りの時間は、自治会長・民生児童委員・大宮退職校長会幹事・県退職校長会幹事としての職務、また趣味のゴルフ等に使っている。回り続けるコマのように生きていないと倒れてしまうように思っているのかも。

物にも冥利あり

星 美千也

コレクション好きで、下手の横好きの多い我が家は内も外も物にあふれている。インテリア小物・人形・絵・花器・椅子・盆栽などなどである。「断捨離」という言

葉を聞く度に、胸が痛んできたがある時、「物にも冥利あり」という言葉を知り、妙に落ち着いた。こちらの本気のありようで、物も冥利に尽きるのかも知れない。断捨離のことはもう少し先にして、しばらくは物の存在を楽しみ、物づくりに励みたいと思っている。

上り、下り

中村 勝光

昔、山に登る時は急な上り坂で息が上がり、太ももが痛くなった。退職してから、上り坂に不安を抱えつつ高尾山に登った。上りは思っていた以上に疲れずに登ることができた。しかし、下りはしばらくすると膝が痛くなった。昔は感じなかった予想外のことだった。人生はよく山登りに例えられるが、人生も下り坂ではどこかが痛んでくるのか。いやいや、人生の頂上はどこだかわからないし、今まだ上り坂を登っている気がする。

教育実習から思う

矢部 一夫

今、小学校の教員を目指す学生と学んでいます。本来、教育実習では、学校現場や児童の様子を肌で感じ、教員になりたい気持ちを一層強くするというのが常でした。しかし最近では、「先生の仕事が大変なので自分に勤まるか心配」

「うまく指導できるか不安」という声が多く、しまいには「教師になるのを再考します」という学生が増えています。

教育の質の低下や教育の危機が現実感を帯びていることをとても危惧しています。

メンタリピン ドラドラ！

新井 栄司

何年振りだろうか、手積みの麻雀をやった。指先を動かし、使うことは健康に良いらしい。事の発端は高校の同級生との飲み会。月に1〜2回、昼間、K君の家で集まれるメンバーで実施。立案・調整してくれる人がいる。皆遠く、東京から車で来る者もいる。

飲まない、吸わない、賭けない。何とも健康的である。勝つても負けても皆笑顔。くだらないことをしゃべり、持ち寄ったものを食べる。いろいろな情報が飛び交い、「またね」と皆帰っていく。

20年ぶりの公民館

中村 淑人

現在、会計年度職員として公民館に勤務しています。

20年前は、学校との連携事業を行う館はまだ少なく、学校と公民館を勤務して感じたことは、それぞれの敷居の高さでした。

今は、各公民館の館報に、小中

学校との連携事業が数多く掲載されています。学校と公民館相互の理解と協力で、全ての館で連携事業が行われています。更に、地域のつながりをはぐくむ公民館を目指して努力を続けたいと思います。

人の縁

鍋木 隆

1年ほど前に妻を亡くしました。64歳でした。これから二人で第二の人生を楽しむはずだった時に、長く連れ添った大切な人に先立たれ、心にポツカリ穴が開きました。抜け殻のようなになった時期もありました。そんな時に声をかけ、慰め励ましてくれたのは、昔からの友であり、職場を共にした先輩方や仲間たちでした。現職時代も、自らの力不足からたくさんの人たちに助けられ支えられて来ましたが、今回、改めて、人のやさしさ、人の縁に救われた思いでいます。本当にありがたい限りです。これからも、人の縁を大切に、妻の分まで生きていこうと思っています。

「100」を目指して

青木 洋

今年の箱根駅伝は、記念の100回大会でした。王者駒澤大学に果敢に挑む青山学院大学の原晋監督の「負けてたまるか大作戦」に

奮起する選手の姿に感動しました。そこで、私も今年の目標として、『「100」を目指して』を掲げました。

- ① 年間100冊の本を読む
- ② 健康を考え、復活したゴルフで、100切りをする
- ③ チャレンジスクール参加生徒を、100人にする

等、他にも「100」という数字にこだわり、一日一日を有意義に元気に過ごそうと思っています。

私とバイク

長沼 信夫

16歳を前にしたある日、近所のバイク店主がバイクメーカーの主催する原付運転免許教室の話を父にもつてきた。近く、原付免許の出張試験があり、それに向けての開催で、私を勧誘してきたとの事。その話を聞かされた時は、すでに教室への申込後であった。バイクに対して特別な思いは無かったが、免許取得して、いざ乗ってみるとその爽快感は特別なものだった。それから50余年、今は趣味としてバイクは良き相棒となっている。

猫との暮らしから考えたこと

井山 直之

文豪ヘミングウェイは「猫は絶対的な正直さをもっている」と書いています。猫は独立心が強く、

他の猫と自分を比較することがなく、人間にも無理に気に入られようとしないそうです。それでも、猫と一緒にいると癒されることなくさんあります。それは猫がもつ正直さや純真さに人が触れた瞬間に感じることもなのかもしれません。正直とわがままは違います。私もこれからの人生を楽しく正直に生きていければと思っています。

学生街の喫茶店

福島 博子

職場の大学があるそれぞれの街。仕事の前後に街の喫茶店に立ち寄ることが多くなったが、店（今はカフェと呼ぶ？）の様変わりを実感する日々だ。

まず、どの街もチェーン店ばかりだ。一律のメニューと味は珈琲好きの私にとっては、つまらない。また、時間帯にもよるのか、一人でスマホやPCに向かっている若者が多い。WiFiやコンセントを求めてカフェに入るのか、レポート等を進めているのか、はたまたアフターコロナの新習慣か。学内のカフェも同様である。

いずれにしても「訳もなくお茶を飲み話している」若者にはどこに行ったら会えるのか。学生時代に流行った歌を脳内でリフレインしながら、この原稿を書いている。

新会員コーナー どうぞよろしく

昼の散歩

三村 悟

再任用になってから歩く機会が減法減った。そこで昼休みに散歩を始めた。別所沼公園まで毎日往復していると、日によって景色が変わることに気付いた。季節によって彩りを変える木々や花々と同じように、釣りをする人、幼な子と遊ぶ人、颯爽と走る人…。公園に集う人々もまた公園の景色を創り出しているのだ。私も、この公園の景色の一つなのかなと思つたら、なんだか歩く背筋がピンとしてきた。随所にかくありたい。

よろしくお願ひいたします

清水 肇

この度、大宮退職校長会に入会させていただきました。清水と申します。教員生活を旧大宮市でスタートし、昨年3月に無事定年を迎えました。現在、再任用1年目をさいたま市教育委員会事務局でお世話になっております。業務の中に指導訪問があり、いくつかの小学校におじゃましました。訪問先で校長先生に、かつての仲間と

して、ご助言させていただいてます。今後も少しずつできる範囲で恩返しさせていただく所存です。ありがとうございます

鈴木 康弘

38年間の教員生活では、多くの皆様に支えていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

4月から館岩少年自然の家で、主査として働かせていただく予定です。今までの経験を子ども達や学校、若い指導主事のために活かしていけると嬉しいです。働き始めて体重が3キログラム、腹囲が6センチメートル減りました。体にいい生活を送っています。

野菜の栽培を楽しむ

田口 彰久

現在、野菜作りに夢中になってます。狭い家庭菜園で種まきや苗付けの時期を少しずつずらすなど工夫して、春菊、キュウリ、茄子、トマト、オクラ、玉葱、ニラ、大根、かぶ、ホウレン草、小松菜などの旬の野菜、カリフラワー、カリノケルなどのヨーロッパ野菜の栽培に挑戦しました。時間を見つけては、追肥、支柱立て、除草に励みました。大小不揃いでしたが、新鮮



な野菜を収穫し、味わうことができました。

コナ禍の校長職を終えて

富田 英雄

定年退職から1年が過ぎます。

退職前の3年間は、まさにコロナとの戦いの連続でした。入学式の中止、臨時休業、部活動の大会や修学旅行、行事の中止、オンライン授業への対応など、経験したこのない課題に直面しました。それでも、生徒、先生方が懸命に教育活動に取り組んでくれたこと、今でも本当に感謝しています。現在は科学館に勤務する傍ら、旅行やコンサート、ぶらり散歩など、少しゆつくりしています。

今なお修行中

渡邊 祐子

昭和・平成・令和と三つの時代を、仕事と家事と子育てに休む暇なく駆け抜けた。60歳定年最後の私たちは先輩方の背を追ひ、またたくさん支えていただきながら、がむしゃらに進んできた。

そこで、4月からはゆつたり過ごす時間も大事にしようと考えた。振り返ってみるとどうだろう。根っからの性格か、相変わらずバタバタしている。憧れの穏やかな生活は一体いつやってくるのか、私にはまだまだ先の話らしい。

昔のこと

濱崎 泰行

定年退職して1年、時間に余裕ができて、今大相撲観戦を楽しみにしています。

少年時代を相撲部屋の多い地域で過ごした私は相撲には昔から愛着がありました。早朝の出稽古を横目で見ながらの登校、お相撲さんと一緒にたつた銭湯。特に千秋楽には金一封を親から持たされ、相撲部屋で焼き鳥や鍋料理などおいしくいただいたこともあります。こんなにおいしいものをお相撲さんは毎日食べているのかと思つたものです。

教え子からの年賀状

春山 悟

現職の頃と比べると生活が一変し、気持ちが緩んでいる中で今年「先生、ご退職お疲れ様でした」と、年賀状が届いた。若い頃の教え子で特に思い出多き生徒でした。しかし、この年賀状を頂き、これまでの教員生活を振り返った時、一生懸命に取り組む子供たちの姿から毎日多くのエネルギーをもらい、行く先々でいい出会いがあり、自分の未熟さに気づかされ、多くのことを学ばせてもらったことに、ありがたさを改めて感じた。

よろしくお願ひします

内河 水穂子

さいたま市立ひまわり特別支援学校を最後に、令和5年3月末に勲奨退職をいたしました。退職校長会に入会させていただき、うれしく思っております。

現在は、埼玉大学に勤務するとともに、週1回、さいたま市で初任者指導の非常勤講師をしております。今までは、教員の資質向上を考えてきましたが、これからは教員養成からの人材育成を考えていこうと思っております。皆様、よろしくお願ひします。

会費の納入について

旧大宮市域（大宮区・西区・北区・見沼区）にお住いの会員の皆様には、令和6年度から会費の納入が銀行振込になります。理事会にて配付される「令和6年度会費の納入について（お願ひ）」をお読みいただき、ご協力をお願いします。

ご質問・ご相談がありましたら、各班の理事さんまたは会計幹事にご連絡ください。

※ なお、旧大宮市域外の会員の皆様につきましては、従来のとおりゆうちょ銀行への振込で集金させていただきます。

専門部会報告

今年度第2回以降の各専門部会が開催され、次のような活動が報告された。

研修部

今回は「チャレンジスクール推進上の成果と課題」をテーマとして、10月28日(土)に大宮北小学校のチャレンジスクールを訪問した。

大宮北小では、平成21年度より実施しており、地域住民

による実行委員会を組織して企画・運営を行っている。今年度は「あいさつを大事にしよう」を目標にして、心豊かに健全な子どもたちの育成に

おめでとうございます

次の方々がめでたく米寿・傘寿を迎えられました。

〔米寿〕 若山 法一氏(故) 昭和10年6月4日生

三枝 暢氏 昭和10年7月5日生

瀬田 良宏氏 昭和11年1月30日生

〔傘寿〕 岡田 孝雄氏 昭和18年4月5日生

渡辺 光雄氏 昭和18年8月3日生

中島 諄子氏 昭和18年9月9日生

清水 三男氏 昭和18年10月7日生

三戸 一嘉氏 昭和18年11月26日生

船越 忠男氏 昭和19年3月30日生

取り組んでいる。

訪問当日は、子どもたちのものづくり体験「つくって、あそぼう」に本会より7名が

参加させていたいただき、終了後に実行委員を交えて研修テ

マについて協議を行った。ものづくり体験では、牛乳パックを使ってゴルフのパター作

りをしていった。低学年の子どもが多数参加しており、自作

のパターで紙のボールをカッピンさせると、歓声を上げて

喜んでいった。

チャレンジスクール推進上の成果として大きく2点。一

つは、子どもたちがものづくりに真剣に取り組み、完成し

た作品がうまく活用できるか

実践を通して学んでいる姿である。もう一つは、体験活動

を通してものを作ると喜びやそれを使って遊ぶ喜びなどが得

られることである。

課題としては、登下校時の交通事故や犯罪被害の防止の

他、スタッフの高齢化や指導者、ボランティアスタッフ等

の確保などが挙げられた。

今回の研修は、教えることと学ぶことの大切さ、そこか

ら生まれる感動などを考えさせられる誠に意義深いものであった。

懇親旅行は「桜田門外の変を現場検証する！」と題して、

10月20日(金)に実施した。16名の参加を得て、上野駅に集

合し、愛宕神社へ向かった。ここは、水戸浪士一行の参集

の地である。その後、事件現場である外桜田門前を経て有

楽町駅までのコースを当時の様子を思い浮かべながらウオ

ーキングを楽しんだ。

史跡巡りは、「バラの町と野本町を訪ねる」と題して、11

月16日(木)に実施した。当日は、17名が参加した。与野本町駅前を出発し、まずは与野

訃報

慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

山崎茂雄氏(92歳)

令和5年9月8日逝去

若山法一氏(88歳)

令和5年11月22日逝去

神山英三氏(84歳)

令和6年2月17日逝去

小島英一郎氏(97歳)

令和6年2月28日逝去

編集後記



今年は正月から能登半島を中心とした大規模地震があり、多くの方々が被災されました。この大規模地震により犠牲となられた方々に心よりお悔み申し上げます。被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

さて、第61号が4年ぶりにフルサイズでできあがりしました。コロナ禍により止まっていた時がようやく元に戻ってきた感じがします。編集にあたり、皆様の原稿を一足先に拝見して、多くの皆様方が感じられた喜怒哀楽、それぞれの方々の息遣いを紙面から感じることができました。

広報部

9月13日(水)の理事会で会員だより第60号を配付した。市教育委員会の取組や大宮市の定期総会報告、私のときめきライフ、囲碁同好会の紹介などを掲載した。

10月12日(木)に広報部会を開催。第60号の振り返りと次号の内容について検討した。

今号に原稿をお寄せくださった皆様に、感謝申し上げます。
〔編集委員〕 佐藤 薫 (副会長)
中山正一 眞嶋廣久 新井栄司